

ごとう通信

第 59 号

平成 17 年 11 月 1 日

夏の暑さが終わるとすぐに寒くなってしまいます。今年は秋晴れが少なく、いつもジメジメしていたように思います。残念ですね。そして季節はいよいよ寒い冬へと向かっていきます。誕生日が冬のわりにはめっぼう寒さに弱い僕ですが、皆さんも体調管理には気をつけてくださいね。

さて、先月、「認知症と口腔ケア」というタイトルで講演せよとの命令があり、自分なりに考えてお話ししてきました。もちろん、僕たちが実践している訪問診療や口腔ケアのお話する機会が多いのですが、「認知症（少し前まで痴呆と呼ばれていたもの）」がトピックになるとなかなかつらいものです。僕の前では「入れ歯は

痛くないよ、すぐ噛めるよ。」と笑顔で答えられたので安心してしているとご家族の方に呼ばれて「母は先生が来たときしか入れ歯を入れていません」と言われたり、歯ブラシを見た瞬間から口をしつかりと閉じてまったく開けない方など、悪い記憶しかありません。

とても成功例など考えもつきませんが、思い当たるものがありました。ある家族の方に、「先生が来たときだけ笑顔を見せるんですよ」と言われたことです。初めて訪問診療を始めた当初は、認知症というと、こちらも身構えてしまい、かえって緊張させていたかもしれませぬ。しかし、最近では、とにかく喜んでもらえばいいやと考えています。「口の中がさっぱりして



うれしい」「入れ歯が痛くない」だけでなく、「面白い兄ちゃんが来てくれてうれしい」であっても。きっとこの辺に認知症の方へのケアのヒントがあるのではないかと思います。と言うことで、講演の方は…自己満足はしました！

味覚の刺激

ここ最近のマイブームは「味覚」です。と言っても「なんのこっちゃ」という感じですが、味覚刺激が脳をかなり活性化する、ということをもまく僕たちの実践に活かせないかなあと考えています。

このルーツは、ある訪問先のご家族が「うちの母はこの飴を口に入れるとなめる仕草をするんですよ」と言われたのが最初です。そのお母様とはあまりコミュニケーションがと